

第 14 回 CPD 協議会 ECE プログラム委員会幹事会  
議事録

1. 平成 24 年 12 月 3 日（月）16:00-18:10

2. 日本工学会会議室

3. 出席者：

川島一彦、小松生明、高草木明、持田侑宏、秦信宏、長井寿、但田潔、盛山保雄、山本誠、奥津良之、清田勇毅

4. 配付資料

資料 14.1 第 13 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録（案）

資料 14.2 日本工学会 CPD 協議会 ECE ワーキンググループ：ECE プログラムの必要性と要件に関する検討（平成 20 年度報告書）

資料 14.3 今後の ECE プログラムのあり方に関して現在までに出了された意見

資料 14.4 改訂方針（案）（川島）

5. 議事

1) 前回議事録（案）確認

2 箇所の字句訂正を加えた上で、承認された。

2) 「ECE プログラムの必要性と要件に関する検討」（平成 21 年 3 月報告書）の改訂

資料 14.2、14.3 に基づいて、川島幹事長から、平成 20 年 3 月に出了された「ECE プログラムの必要性と要件に関する検討」、及び、第 8 回～第 13 回幹事会で行ってきた今後の ECE プログラムのあり方に関する意見が紹介された後、資料 14.4 に基づいて、平成 21 年 3 月の報告書の改訂計画について説明が行われた。議論の結果、出了された主要な意見は以下の通りである。

（1）改訂の基本スタンス

① 平成 21 年 3 月当時には、ECE プログラムはまだ存在しておらず、ECE プログラムの必要性を提案することに重点があった。現在では ECE プログラムが立ち上がっているため、ECE プログラムの立ち上げの必要性を強調するという姿勢から、ECE プログラムをどのように運用するかという姿勢に記述を変える。

② 平成 21 年 3 月段階では、単に報告書に ECE プログラムの必要性と要件を記述しただけでは、各学会で ECE プログラムの立ち上げが進まないであろうとの考えから、日本工学会が中心となって ECE プログラムを立ち上げるというスタンスを取った。現実に ECE プログラムが立ち上がってきた現在、各学会における ECE プログラムの立ち上げをエンカレッジする方向に記述を充実させていく。

③ 複数の学会が主催しないと ECE プログラムを構築できないとの印象を与えた記述を修正し、1 つの学会が他の学会の支援を得る（協賛等）形で ECE プログラムを立ち上げられるように記述を充実する。

④ タイトルは「ECE プログラムの開発と運用—国際競争力向上に向けて—」もしくは「国際競争力向上のための ECE プログラムの開発と運用」を基本とし、できばえを見て最終決定する。年度報告書ではなく、ECE プログラムの実施、運営に関するガイドラインとしての性格を持たせる。このため、平成 21 年 3 月版のように（平成 20 年度報告書）という記載は付けない。

## （2）構成及び原稿作成分担

表 1 の構成を基本とし、以下の点に留意して記述する。

- ① 平成 21 年 3 月段階の記述を現在の記述に変える。キーワードは以下の点である。
- a) 日本の国際競争力の向上に寄与すること。特に、2 章の中には、国際競争力の強化を前面に出す必要がある。3 月 11 日東日本大震災も含めて、社会環境の大きな変化も示すのがよい。
  - b) 異分野、他分野の経験、知識を知ることが当該分野の閉塞感を打破するために有効である。
  - c) 閉じた日本に閉じこもる技術者ではなく、グローバル市場に対応できる、海外から見て当たり前の技術者育成に資する技術者教育プログラムであること。
  - d) 地に足の付いた技術力を持つ技術者教育に資すること。
  - e) 技術者は企業の OJT に頼るのではなく、自らの能力アップを図る必要があることを強調する。
  - f) 原稿の分担は表-1 の通りとする。ただし、どの分野に参加することも可能であるので、有効と考えられる事項はどの章であってもかまわないため、原稿を提出すること。
  - g) 原稿の余白、フォントの種類及びサイズ、図表の書式及び本文中における引用の仕方等、原稿フォーマットは、平成 21 年 3 月版を基本とする。

## （3）改訂版の作成スケジュール

平成 25 年 1 月 18 日（金）に第 1 次原稿、2 月 1 日（金）に第 2 次原稿を作成する。その後、全体調整を経て、平成 25 年 3 月に改訂作業を終了させる。

## 6. その他

次回及び次次回は以下の通りとする。

次回：平成 25 年 1 月 18 日（金）9：00－12：00

次次回：2 月 1 日（金）16：00－19：00

表-1 改訂版の目次構成(案)

平成 21 年 3 月版	改訂版
ECE プログラムの必要性と要件に関する検討 (平成 21 年 3 月)	ECE プログラムの開発と運用—国際競争力 向上に向けて—(仮)
<p>まえがき</p> <p>1. ECE とは何か?</p> <p>2. ECE プログラムが求められる背景とその要件</p> <p>2. 1 ECE プログラムが求められる背景</p> <p>2. 2 ECE プログラムの要件</p> <p>3. ECE プログラムの開発と運用</p> <p>3. 1 ECE プログラムの開発・実施体制</p> <p>3. 2 ECE プログラム運用上の留意事項</p> <p>4. ECE プログラムの進め方と例</p> <p>4. 1 ECE プログラムの進め方</p> <p>4. 2 ECE プログラムの例</p>	<p>まえがき</p> <p>1. ECE プログラムの目的 (現: 1 のプログラムの目的まで) (小松)</p> <p>2. ECE プログラムが求められる背景 (現: 2. 1 ECE プログラムが求められる背景) (持田、但田、盛山)</p> <p>3. ECE プログラムの要件 (現: 1 の ECE プログラムの要件以降、2. 2 ECE プログラムに求められる要件) (高草木)</p> <p>4. ECE プログラムの開発と運用 (現: 3 + 4. 1 ECE プログラムの進め方) (長井、山本)</p> <p>5. ECE プログラムの例</p> <p>5. 1 はじめに</p> <p>5. 2 ナノエレクトロニクス ECE プログラム (秋永、横山、秦)</p> <p>5. 3 先端計測とナノ物質 ECE プログラム (長井)</p> <p>5. 4 今後、期待される ECE プログラムの例</p> <p>5. 4. 1 再生可能エネルギー技術 (小松)</p> <p>5. 4. 2 SICE 続プロセス塾 (奥津)</p> <p>5. 4. 3 . . . .</p>